

デジタルアキュライザーDACU-500の導入(12)

—DAC-1における効果(2)—

1. はじめに

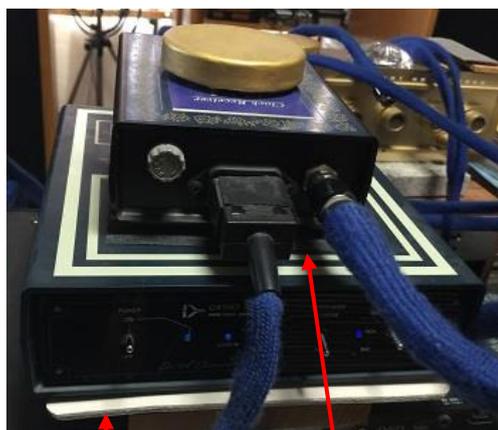
前報(11)に引き続き。インフラノイズのDAC-1を使用してDACU-500の効果の確認を継続いたします。

2. DACU-500の試聴方法

試聴ルートは前報(9)と同様、次のルートです。

LHH1001→CCV-5(GPS-777)→DACU-500→DAC-1→SV-1

この場合、CCV-5には、GPS-777から88.2KHzのクロックを入力します。今回は、DACU-500の効果を最大限に発揮させるために周辺の対策を強化してみます。まず、DAC-1の出力を調節するためにEx-ProのパッシブアテネーターSV-1のインシュレーターを自作のものからインフラノイズのマグナライザーに替えてみます。DAC-1のインシュレーターも自作のものからインフラノイズのPSI-1000に替え、CCV-5のインシュレーターも自作のものからインフラノイズのアリエナイザーミニに替えてみます。つまり、LHH1001とSV-1以外は、すべてインフラノイズ製品とし、最近のインフラノイズ製アクセサリーを投入して、総合効果を確認するものです。



PSI-1000

アリエナイザーミニ
(CCV-5の下)

マグナライザー

音源は前報(10)で使用したブルガリアンポリフォニーの合唱曲、演奏会で聴いてきた[フォンス・ムジケ](#)というグループの18世紀のアーチリュートとバロックギター

の伴奏付きのイタリアの歌曲、ラモーのミーントーンで調律されたチェンバロ曲や通常平均律の曲など、音律や和声の取り方にバラエティのあるものを選んで DACU-500 を付け外ししながら聴いていきます。

3. DACU-500 の試聴結果

SV-1 のインシュレーターをマグナライザーに替えますと、騒がしが消え、落ち着いた音になります。駆動系のないパッシブアテネーターでもマグナライザーの効果があるのは予想外です。

さらに CCV-5 のインシュレーターをアリエナイザーミニに替えますと、楽器の分離がしっかりとして、全体に透明感、繊細感が向上します。ブルガリアンポリフォニーでは不協和状態がより分かりやすくなります。

DAC-1 のインシュレーターも PSI-1000 に替えますと、全体に響きが良くなり、細かい間接音も良く聴こえるようになります。

すなわち、DACU-500 単独の効果に比べて、各々のインシュレーターが効果を発揮して DACU-500 をより魅力的なもの仕上げてくれます。

4. まとめ

最近のインフラノイズ製アクセサリーを投入してみたところ、効果を打ち消しあうようなことはなく、DACU-500 の効果を最大限に発揮できることを確認できました。

以上